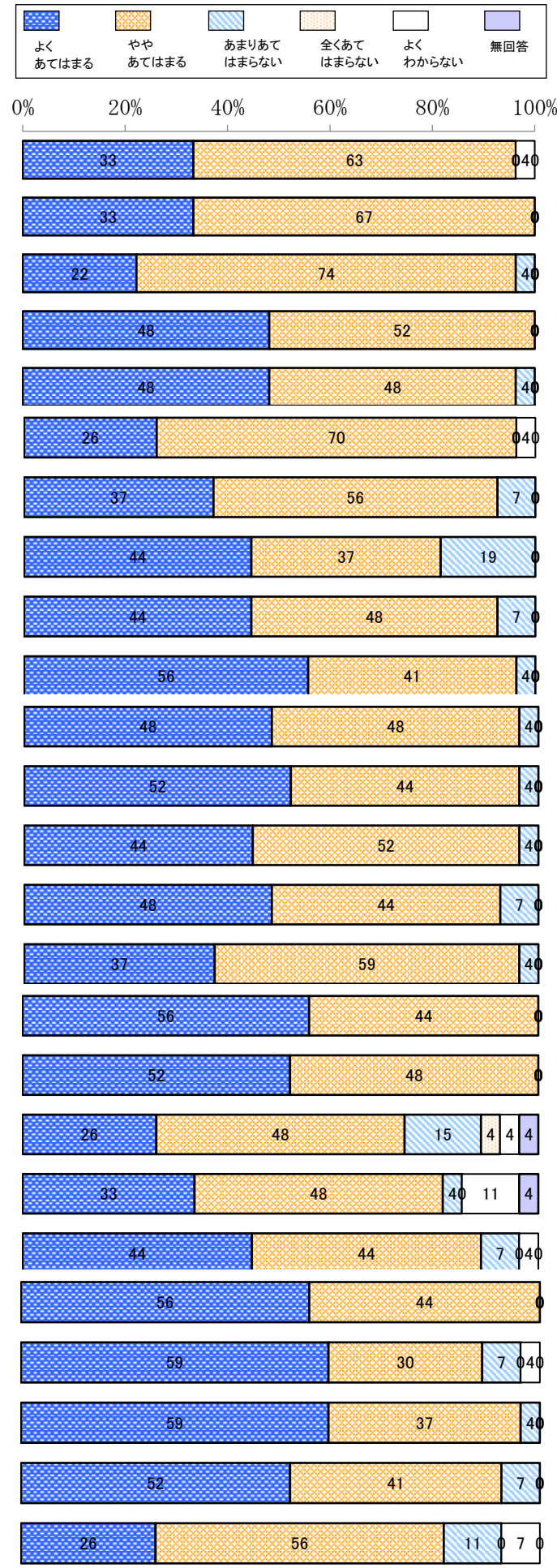


アンケートの結果			上段：生徒 下段：保護者等 グラフ：教職員					
			A	B	C	D	よく分らない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	16	50	24	3	6	0
	2	児童・生徒の様子	57	35	6	2	1	0
	3	基本的生活習慣	45	46	8	1	0	0
	4	児童・生徒理解	19	47	22	5	7	0
	5	健康・安全・安心	43	43	9	2	3	0
学力向上の取組	6	分かる授業	23	53	20	3	2	0
	7	個に応じた指導	38	41	15	3	3	0
	8	学習習慣	37	29	23	9	2	0
	9	情報教育	56	37	5	1	1	0
	10	学校図書館の活用	36	43	17	3	2	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	50	39	7	1	3	0
	12	道徳教育	47	41	8	1	4	0
	13	教育相談	20	33	24	12	10	0
	14	人間関係づくり	52	32	10	5	2	0
	15	自治的な活動	39	42	11	2	6	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	37	29	11	3	20	0
	17	相談への対応	30	40	10	3	16	0
	18	学校への参加	27	27	13	11	23	0
	19	地域との連携	16	19	30	21	14	0
	20	意見の反映	28	40	13	5	14	0
各学校の特色ある教育	21	キャリア教育	28	39	17	7	9	0
	22	学校図書館学習	21	37	18	9	15	0
	23	ICT教育の推進	49	38	7	2	3	0
	24	学力向上	22	22	25	23	8	0
	25	ボランティア活動	24	31	18	12	14	0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

学校便りやホームページ更新の機会を捉えて、情報発信や周知を行っており、目標や方針は保護者によく理解していただいている。

「楽しい学校生活を過ごしている」と感じている生徒、保護者はともに2ポイント減少だが、90%以上が肯定的な回答で、満足度は高い。

基本的生活習慣について、教職員は昨年度10.7ポイント上昇し、さらに今年度7ポイント増加した。継続して生活習慣の向上に努める。

教職員の意識向上に対し、励まされていると評価した生徒は6.9ポイント減少である。今後、心のふれあいを大切にし生徒理解を図る。

三者とも同じとらえ方をし、高く評価した。今年度開始した引き取り訓練や、安全指導、食育、健康教育に取り組み、充実させる。

生徒の肯定的回答は昨年と同じ75%である。何を理解しているか、何ができるかについて自己分析ができる授業を展開していく。

生徒の肯定的回答は昨年度5.9ポイント、今年度はさらに1ポイント増加した。今後も指導方法の工夫・改善に取り組んでいく。

今年度、家庭での学習課題の提示が多くなり、保護者の肯定的回答も3.7ポイント増加した。今後学習課題のさらなる工夫が必要である。

生徒、教職員ともに肯定的回答は9割を上回る。今後もICTの効果的な活用に向け、研修を重ね、日々の授業改善に努める。

学校図書館を活用した授業は当初大幅に減少したが、教科と連携した読書指導、学校司書との協働授業、学校図書館活用授業を推進する。

肯定的回答が増加した。新型コロナウイルス感染症に関連する人権について機会あるごとに考えさせ、人権尊重の精神の育成を目指す。

保護者7.4ポイント増だが肯定的回答は76%にとどまる。「考える道徳・議論する道徳」に向け授業改善、授業力向上に取り組んでいく。

三者ともに3ポイント以上の増加は見られるが、他の項目に比べ低い。気軽に相談できる環境を構築、相談への抵抗感の減少を図る。

運動会、校内ハローワーク等、工夫・改善を加え教育活動を展開した。保護者の肯定的評価が最も高い項目である。

教職員の評価は17.7ポイント向上した。さらに工夫を重ね、自治活動への責任ある参画態度を育てていくことが必要と考えている。

保護者の肯定的回答は88.2%である。メールによる配信や学年・学級通信、HP、学校便りによる紹介等、間断なく継続した結果である。

教職員の肯定的回答に反し、生徒、保護者の評価は低い。生徒が悩み等を相談しやすい態勢をつくり、迅速かつ丁寧な対応をしていく。

保護者の参観が不可能であり、三者ともに20%前後の減少である。今後さらに情報発信に努め、学校の様子をわかりやすくお伝えする。

地域行事でのボランティア活動が中止となり生徒の肯定的意見は34%にとどまる。行政による指示を踏まえ連携の在り方を検討する。

保護者の肯定的意見は、教員の88.8%に対して59.8%にとどまる。常日頃から繋がりを大切にし、意見、要望を伝えやすい環境をつくる。

社会を構成する一員としての自覚をもたせるため、学級・学年・学校組織の中で社会的自立を促し、教科においては研究成果を生かす。

「創造性・想像性を高める」「教養を高める」「論理的文章構成に好感を持つ」「メタ認知能力を高める」ために、読書活動を推進する。

タブレットPCを意図的に活用し、理解を促すとともに、ICT機器で表現することにより授業の効率化を図り、質の高い授業を目指す。

てらこや等の補充教室推進を保護者も高く評価している。各種検定を受験しにくい状況もあり生徒の肯定的評価は12.6ポイント減である。

縮小となり残念と捉えた生徒は、昨年度「活動を推進している」よりも4.5ポイント多く、生徒のボランティア活動への高い意欲が伺える。